



新年のご挨拶

麦の会 会長 滝鼻 卓雄

「麦の会」のみなさま、明けましておめでとうございます。

昨年の一年間、会員のみなさまには、さまざまな面でご理解とご協力をたまわり、心より感謝しております。昨年末の時点で、「麦の会」の個人会員は556名、法人会員は21社に上りました。みなさまからの会費、チャリティーコンサートの拠出金などで、「緑の風」を支援することができました。

「緑の風」は障害者の自立を支援する組織ですが、みなさまの心のもった意思が、「緑の風」の利用者さん、自立できた障害者のみなさんに届いていることを実感できた一年間でした。

とはいっても、障害者の雇用をめぐる政府機関の無理解ぶりが露呈するなど、自立支援の実態は前進したとはいえません。法定雇用率を民間会社に命じておきながら、政府自身は障害者の定義をあいまいにして、あたかも雇用率を確保しているかのような態度で済ましているとは、怒りを通り越して、放心状態に包まれています。

しかし、「麦の会」のみなさまは決してあきらめないと確信しています。平成の時代がいかなる時代になろうとも、この大地に立ち上がった障害者の自立の動きは止まらないからです。「麦の会」のみなさまのお陰で、障害者の視線はぶれることはありません。一日一日と自立に向けて前進しています。

「緑の風」を支援するチャリティーコンサートは、昨年3月で終わりました。でも今年から装いをかえて、「麦の会のつどい」として再出発いたします。来る3月9日、「つどい」は東京・赤坂のアークヒルズクラブで開かれます。すでに会員のみなさまには、ご案内が届いていると思いますが、深沢亮子さんのピアノとお食事を楽しんでいただきます。もちろん「緑の風」を代表して藤村出が福祉を取り巻く情勢を正直に語ります。ご期待ください。

「麦の会」のみなさまが一人でも多く、この「つどい」に参加していただくことを期待しています。



《働き続けるための支援事業》

その先へ…

先日、峡北エリアを担当する相談支援員さんからこんな話を聞きました。

「緑の風で支援をして就労継続 A 型事業所へ行った〇〇さんから、一般企業に勤めたいと相談があり、現在ある一般企業で実習をしています。評価が良ければ年明けには、就職が決まると思いますよ。」

なんと嬉しい情報です。〇〇さんは「働き続けるための支援事業」で企画する OB/OG 会にもよく顔を出してくれます。緑の風に通所している頃は「別に～」が口癖で、天邪鬼なところもあり、当時の就労支援も背中を押されながら実習に行くタイプでした。本当は真面目で、自分で決めたことはコツコツと頑張るタイプ。恥ずかしがり屋なので、人にいろいろ言われたくない。自分なりに工夫するチカラもある〇〇さん。

前回 OB/OG 会に来た時「アパートとかで 1 人暮らしがしたいから、お金貯めないで…だからもっとお金が稼げる一般企業に就職したい」と話していました。緑の風から就労して 5 年半、社会経験の中から〇〇さん自身に「やりたいこと」や「目標」が芽生えていると感じ、嬉しく思いました。

現在実習に行っている一般企業、実は緑の風に通所していた頃にも「就職」を想定して実習をしたことがある企業なのです。当時は背中を押されて…という思いもあったでしょうが、今の〇〇さんにはもっと具体的な目標があるので、はりきって実習に臨んでいることと思います。

障害のあるなしに関わらず、周囲の支えや応援を得ながら、自らも新しいことにチャレンジすることで人は学び、考え、育つのではないのでしょうか。心配だからと抱え込まず、チャンスがあれば少し背中を押して送り出していくことを私達は続けたいと思います。

(長坂センター 木田友紀子)



実習先の企業内部の
写真です

《千代田センターより》

千代田区役所では、区内の福祉団体や事業所などが集い、模擬店などを出店しながら自分たちの活動アピールや周知活動の場として、「福祉まつり」を毎年開催しています。JSPは、区役所 1 階のパンショップで、普段はパンや焼き菓子の販売活動に参加しにくい利用者でも、短時間ずつ交代で販売に携わることを続けてきました。挨拶からはじまり金銭のやりとりや商品の受け渡しなど、役割分担しながら対応します。企業等へ出向いての販売は体力的にきつかったり、接客スピードに対応できない人も、短時間の区役所での販売は楽しく参加できる人もいます。自分が販売の担当時間でなくても、他の出店を楽しみに、買い物やお祭りの雰囲気を楽しめる利用者も多かったようです。

しかし、最近は状況が変わってきたように感じています。普段と異なるイベントは混乱しやすいため欠席する人や、人混みが苦手な接客にも興味がなく施設で過ごしたい人、多くの人に会うことで興奮し精神的に負担を感じる人など、今年は利用者の 3 分の 1 が福祉まつりに参加しない結果となりました。

このことは、集団をベースにしながらか個別の配慮で補えばよいという範囲を超え、日常生活そのものをより個別化し、ひとり一人の生活状況に合わせた支援を作り出す必要があるということでしょう。集団でのイベント参加が難しくなったというだけでなく、日々のカリキュラムや支援のありかたを見直すことが求められる、象徴的な出来事だと受け止めています。このような状況の中、多くの利用者が参加できそうな作業として、ペットボトルのキャップ分類作業をはじめました。キャップのシール剥がしや色分類は、わかりやすく集中しやすい単純作業のため、受注作業の合間や長い休憩活動の一部としても活躍できそうです。工賃は高くありませんが、納期も緩やかで製品管理もしやすく、リサイクルとして社会貢献できる仕事として継続できそうです。最近では区役所内でのベーカリーの注文販売も始まり、予約ポストの設置回収の仕事も試行的にはじめることになりました。このような仕事を増やしながらか日常生活を整え、利用者の生活状況にあった社会参加を模索していきたいと思ひます。

(千代田センター 中村公昭)

麦の会の活動

麦の会 連絡先 TEL : 03-3556-3056
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-7-1
ニュー九段ビル 3F 緑風舎 気付

「麦の会のつどい」へのお誘い

麦の会の活動の大きな柱であった“チャリティーコンサート”が、昨年3月の「世界にはばたくヤングアーティスト」シリーズ“第6回グランドフィナーレ”で一区切りとなりました。これまでの会員の皆様からの篤いご支持にお礼を申し上げます。この区切りを惜しみ、従来のチャリティーコンサートほどの規模ではなくとも、何かの形で会員間の交流の場を設けられないか、などの積極的なご意見もいただき、麦の会の幹事グループで検討を続けてまいりました。そこで、今回、次のような“麦の会のつどい”を企画いたしました。この集いは3部で構成されています。

- 緑の風の活動報告、福祉を取り巻く社会の情勢（藤村出 緑の風業務執行理事）
- ミニコンサート(ピアノ演奏：深沢亮子)
- 着席buffeスタイルのお食事

ちょっと上質の、会員の皆様同士の交流の場を楽しんでいただきたく、ご来場をお待ちしております。

日時：2019年3月9日（土） 12：00開宴（11：30開場）

場所：アークヒルズクラブ（東京・赤坂）

（麦の会 水野明）

*チケットのお申込み、お問い合わせは、麦の会事務局まで（Tel: 03-3556-3056/Fax: 03-3556-3057）
（詳細は、同封のチラシをご覧ください。）

「緑の風カレンダー」2019年版 販売中です！

麦の会では、緑の風の活動をより多くの方々に知っていただき、さらに支援の輪が広がることを願って毎年おなじみの安田薫子さんによるイラスト・カレンダーを製作しています。年末、年始のご挨拶やお友達へのプレゼントなどにご利用ください。皆様からのご注文をお待ちしております。

（収益は緑の風へ寄付と致します）

カレンダーは一部 1,000円(+送料)です。（*送料は、実費をご請求させていただきます。）

ご注文・お問い合わせは 麦の会事務局 TEL:03-3556-3056 FAX:03-3556-3057 まで

*購入をご希望の方は、同封の振込用紙をご利用ください。



TEACCH 実践研究大会のご案内

自閉スペクトラム症の人たちの生涯に亘る支援を研究、実践する TEACCH プログラム研究会主催の「実践研究大会」が下記の日程で行われます。会員以外の方の参加が可能ですので是非ご参加ください。

*詳細は、TEACCH プログラム研究会・支部情報（山梨支部）<http://www.facebook.com/TeacchYamanashi/> でご確認ください。

日程： 2019年2月10日（日）14時より（2月11日は TEACCH 研会員のみのみ）

会場： 山梨県立図書館 イベントホール（山梨県甲府市北口2丁目8-1：甲府駅北口 徒歩2分）

参加費：一般 3,000円（初日）

プログラム： 特別対談「ひとりひとりの個性を大切にするにじいろ子育て」

・本田秀夫先生（信州大学医学部教授）、平野真理子氏（卓球・平野美宇選手のお母様）

緑の風、藤村出です

ご質問をいくつかいただきました
ありがとうございます

まず、「あれ？ 藤村は、江戸っ子じゃないのかい？」

「なんで？ ちえおくれの子どもと遊んでた？」

はい、東京生まれ、なのですが、小さい頃、オヤジの仕事の都合で、滋賀県にある近江学園という施設の敷地内で生活をしていました

ボクにとっては第二の故郷、数年間をそこで育ったボクは、子どもの世界の常用語である関西弁を学び、バイリンガルです（下手くそ、とは言われますが、基本ははずしてません）

「□、・・・」って、なんだ？

「くちてん」と読むそうです

受け売りですが、「ちょっとひとくち」という意味で、添え物に使われます

ググっても出ませんが、あるお店で教えてもらいました

この原稿を書き始めるきっかけがそのお店、敬意を表して、「□、」

では、本文

□、つぶやき(vol. 2)

「なんでや？ なんで家、帰れへんのや？ アホやからか？」

ボクの友人は、バス停に降りる坂の上で、面会に来た母を見送る

「なんでやろなあ？」と言ったきり、次の言葉は出ない

知恵遅れの子どもの施設、近江学園は、大津市石山南郷の瀬田川沿い、立木観音を背にした小高い丘の上にあった

「江戸っ子と聞く藤村理事、なんで関西弁？」と訝る方もいらっしやる

ぼくは、幼少期の数年を、滋賀県のこの施設で過ごした

と言っても、施設にいれられていたわけではなく、新しい重症心身障害児の施設を作る手伝いに父が赴任、家族を連れて、というわけで

昔の施設は、施設の敷地内に家族舎という社宅のようなものがあって、我が家は一家でそこに住んでいた

オヤジがなにをしようが、子どもは関係ない

施設の敷地内、メインストリートに面した場所にある家族舎は、多くの人が集まるところ、子どもたちもみんな家の周りで遊んでいる

朝に、夕に、友だちが入れ替わり立ち替わり、遊びに来る

そして、前号のような事件も起こる

そんな施設のなかの出来事も、楽しいことばかりではない

なんで、母と一緒に家に帰れないのだ？

なんで、家族と離れて施設で暮らさなきゃいけないのか？

友だちの率直な問いに、一緒に遊んでいたって、答えられるはずがない

「えーなあ、おまえは、お父ちゃんやお母ちゃんと一緒に暮らせて」

と言われて、どういうわけだか、気まずい思い・・・

しかし、なにもできない

なにも言えない・・・

後になって知ることだが、「ノーマライゼーション」という思想は、このときすでに、デンマークで芽吹いていた

「ノーマライゼーション」とは、「障害があっても普通の暮らしができるように社会の仕組みを整えよう」という思想

障害故に普通の暮らしができないのは、本人や家族の問題ではなく、社会の仕組みの問題である、と明らかにされている

しかしながら、重度の知的障害があると、収容施設に入れられて、家族と離れて暮らさないといけないのは、現代でも同じ

施設の名称は「入所施設」とか「居住施設」とか、変わっていても、入れられていることには変わらない

本当は、家族と一緒に暮らしながら、教育や支援を受けられれば良いのだが、その仕組みは、まったくと言って良いほど不十分なままである

措置から契約に変わっても（2003年）、自立支援法ができて（2006年）、ノーマライゼーションの芽吹きから

半世紀も経っているのに、この構造はまだ変わっていない

なにも変わっていない

うそっぱちのノーマライゼーションは、まだまだ続く

麦の会総会のお知らせ

2019年度 麦の会総会は、

4月20(土) 午後3時から

緑の風・長坂センター会議室にて開催予定です。

当日は午前11時から、緑の風のサンクスデーを行う予定です。併せてご来場ください。

編集後記

新しい年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。平成の30年間にITの発達により世の中は大きく変化しましたが、障害者支援の仕組みはなかなか変わることが難しく、変化の兆しも見えないようです。

皆様の変わらぬご支援・ご協力に感謝申し上げます。これからも緑の風の応援をよろしくお願い致します。
(麦の会事務局)

発行元：麦の会事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-7-1 ニュー九段ビル3F (榊緑風舎 気付

TEL: 03-3556-3056 FAX: 03-3556-3057

会費等の振込先

郵便振込 00160-1-613953 「麦の会」

銀行振込 三菱UFJ銀行 神保町支店(普) 2224536 「麦の会」